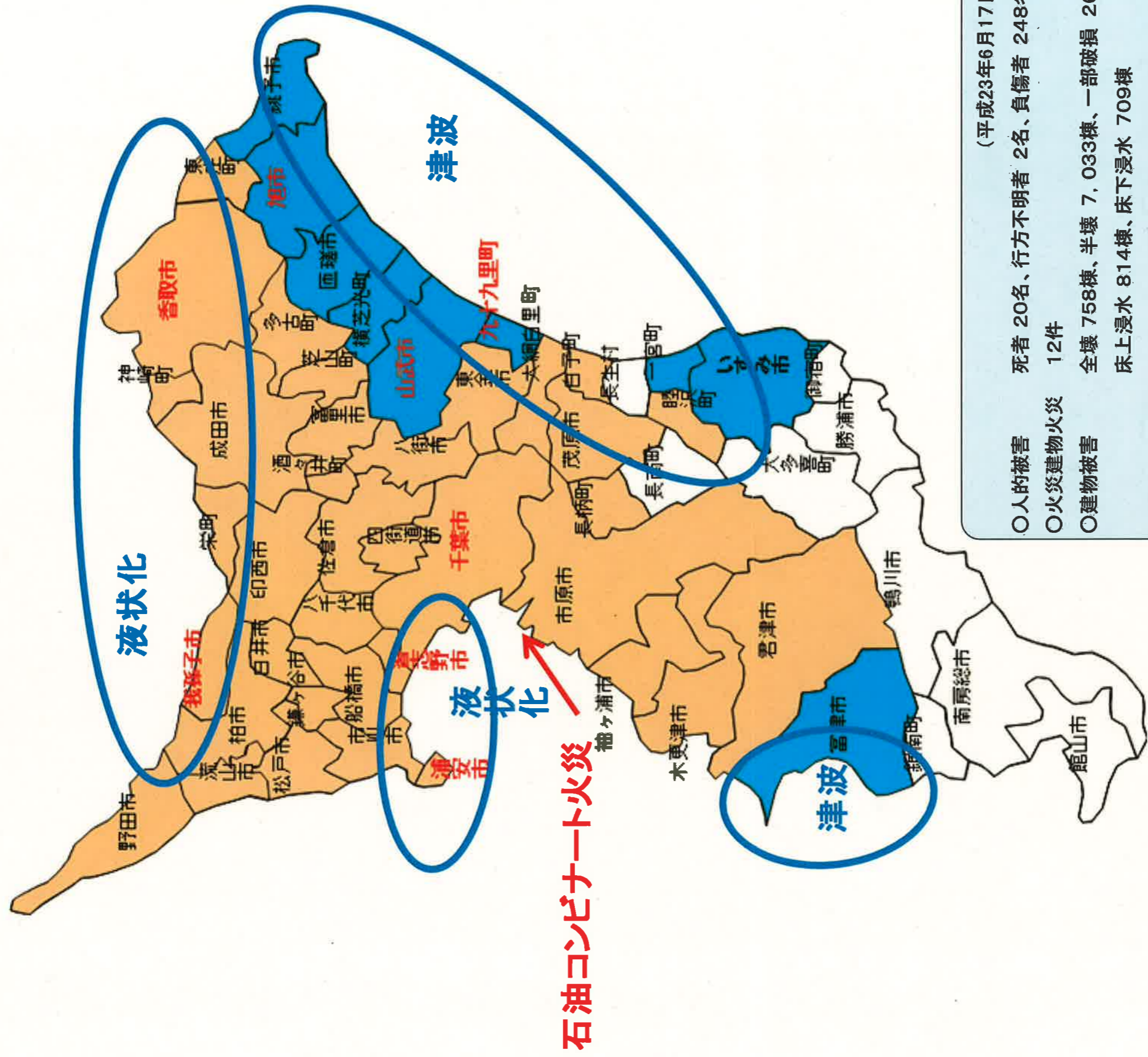


東日本大震災による千葉県の被害の状況



地震による被害のあった市町

地震や津波による被害のあった市町

赤字は災害救助法適用市町（千葉市は美浜区のみ）

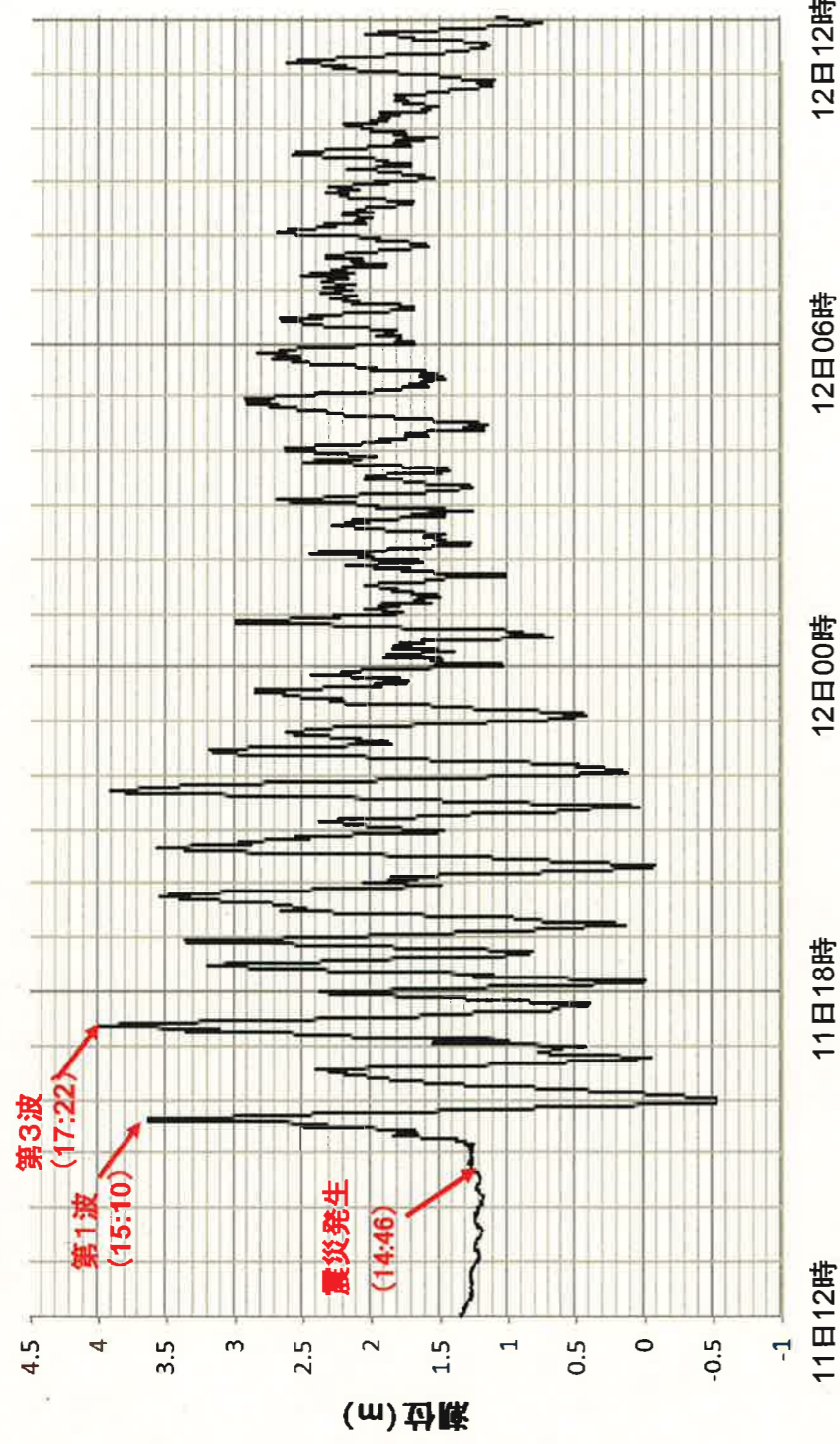
※最大震度は6弱。

(平成23年6月17日現在)

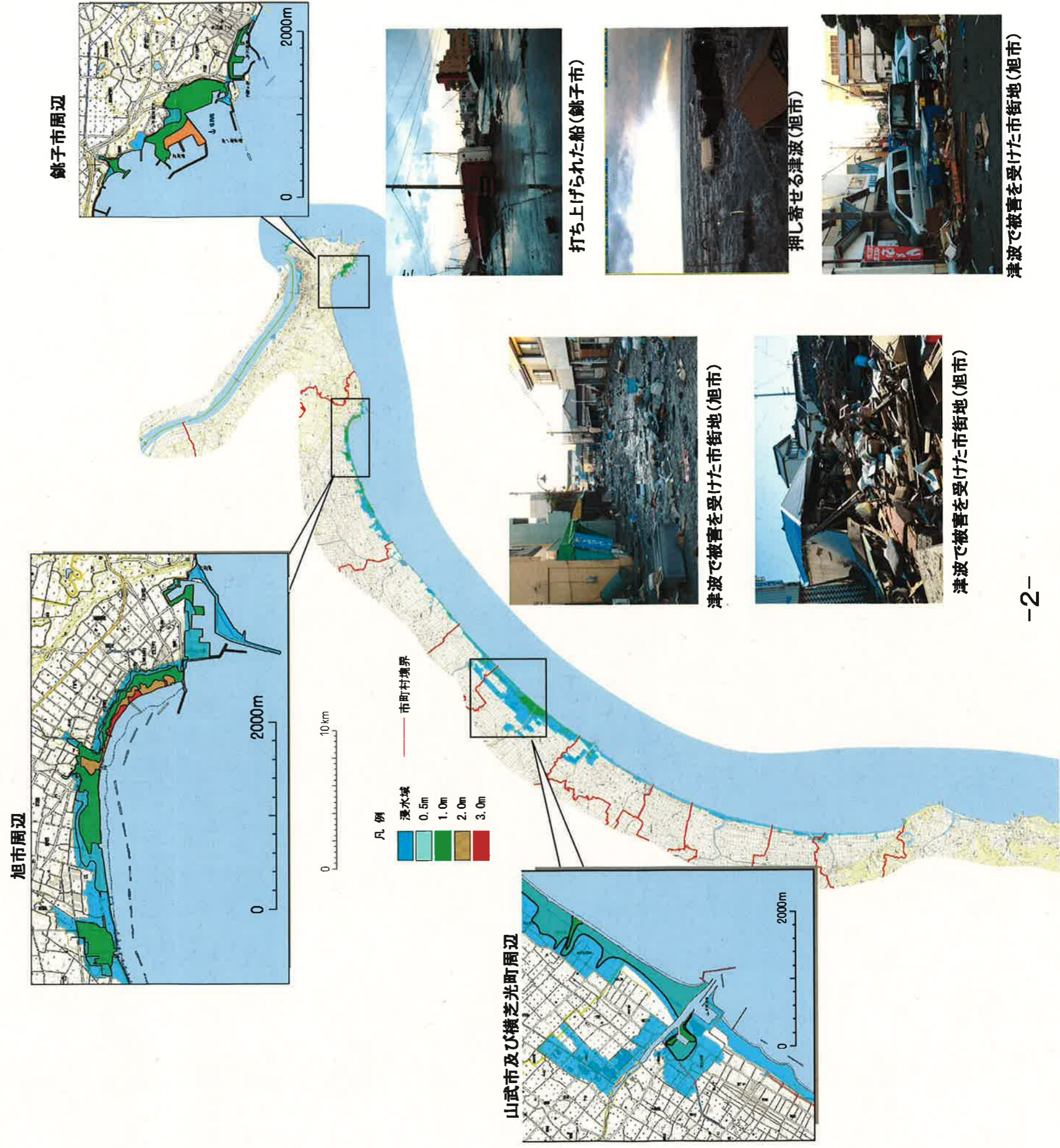
○人的被害	死者 20名、行方不明者 2名、負傷者 248名
○火災建物火災	12件
○建物被害	全壊 758棟、半壊 7,033棟、一部破損 26,298棟 床上浸水 814棟、床下浸水 709棟
○ライフライン関係	水道(断減水) 約306,000世帯→0世帯 電気(停電) 約346,000世帯→0世帯 ガス…浦安市で被害 (供給停止数) 約8,000世帯→0世帯
○作付け困難・減収の可能性のある水田面積	約2万5千ヘクタール
○液状化被害の状況	16市町で約12,000世帯に敷地被害

津波による被害

○震災後の潮位(銚子漁港検潮所作成)



○九十九里地域の等浸水深図(千葉県防災危機管理課作成)



液状化による被害(千葉県環境研究センター作成)



液状化で被害を受けた市街地(我孫子市)



液状化による商店の床の隆起(我孫子市)



液状化による農地被害(香取市)



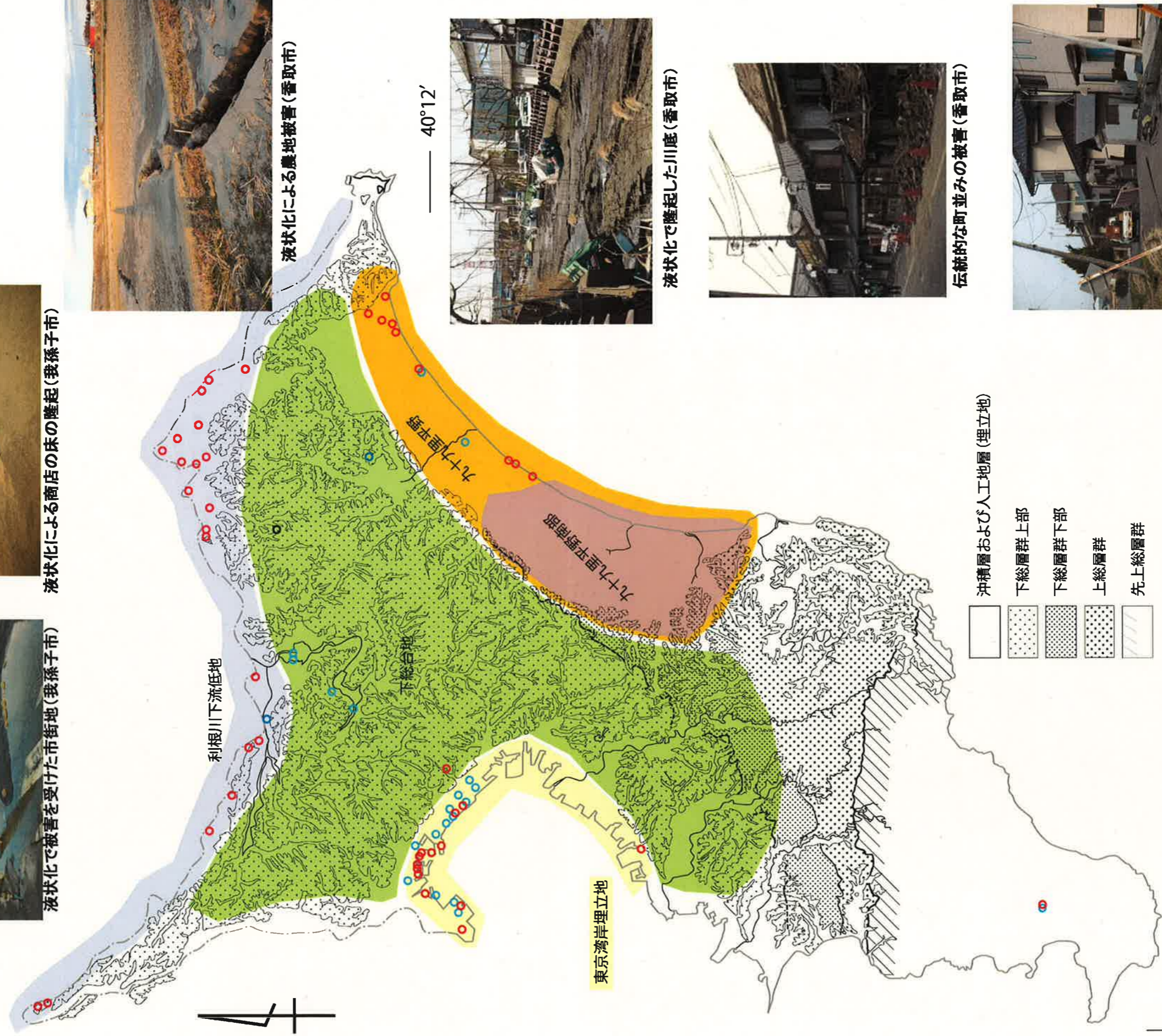
液状化で隆起した川底(香取市)



伝統的な町並みの被害(香取市)



液状化で被害を受けた住宅と道路(旭市)



139°44'48"

- 東北地方太平洋沖地震で液状化被害を確認したところ
- 東北地方太平洋沖地震で液状化以外の被害を確認したところ
- 千葉県東方沖地震(1987)で液状化被害であったが、今回確認したが被害のなかったところ
- 東北地方太平洋沖地震で液状化被害の報告があったところ

液状化被害の形態

【噴砂】

地震により水圧が高まった地下水によって砂の層が流動化し、液状化した砂が地下水とともに噴出する。

【沈み込み】

電柱や家屋など重い構造物が地中に沈む。

【浮き上がり】

液状化した砂は重い液体(比重1.8)となるので、地下タンクやマンホールなどは浮力で浮き上がる。

【抜け上がり】

砂の噴出により砂層が縮むため地盤が沈下する一方、基礎が深く入っている構造物は沈下しないので、沈下した砂層よりも抜け上がりが見える。

【地波】

地震動により地表面が波打つように歪み、その上にある建物が傾く。



我孫子市布佐



浦安市舞浜



習志野市袖ヶ浦



千葉市美浜区新港



浦安市高洲



習志野市香澄



浦安市明海



浦安市高洲



旭市三川



習志野市袖ヶ浦